

賀川 豊彦 著

看護婦の修養

賀川 豊彦 著

看護婦の修養

看護婦の修養

看護婦と職業的危険

三種の危険

世間には、自分の爲に働く人は多いが、他人の爲に働く人は少い。然し、看護婦は、自分の事は差置いて、病人の爲に盡すといふ、最も高尚な、最も善い、最も尊い事業に従事して居られる。然し、看護婦といふ職業には危険がある。その危険を生理的危険、心理的危険、道德的危険に分けることが出来る。

生理的危険から云へば、看護婦には病氣が染り易い。殊に、傳染病院に働く人

は特別である。看護婦の中に、結核患者になつて倒れる人が如何に多いかを見ても判る。

① 心理的危険から云へば、面白い遊戯をしてゐるのとは違つて、病人——肉體的にも精神的にも衰弱してゐる人を取扱つてゐるので、看護してゐる人迄精神的に弱くなつてしまふのである。だから、大膽で、元氣のいゝ、勇氣を持つた人にならないで、多くはセンチメンタルになり易い。人が身投げの話をすると、自分も身投げをした氣になる。然し折角病人を看護しようとする人が弱つてしまつては何もならないが、心理的疲勞の結果は、病氣になり易い。

また、看護婦は、病人に肉體的に接近し、狭い部屋に閉ぢ籠つてゐる爲に、道德的失敗が多い。唯に性慾的失敗ばかりではない。ちよつとすると癩に觸つて、どうしても辛抱出来ない。疲勞して來て、神経質になつて來ると、云はなくても

いゝことを云つてみたり、しなくても可いことをしてみたくなる。對手が金持である、金が欲しくなり、良い着物を持つてゐると、着物が欲しくなる。そして反動的に道德が廢頽して行く。

だから私は、生理的、心理的、道德的危険から救はれて、人生に於て、最も高尚で、崇拜の的となるべき看護婦生活を完成する、看護婦の修養の方法に就て話したのである。

二人分の保 健

論語讀みの論語知らず、といふ言葉があるが、看護婦でありながら、自分の身體に對しては注意しない。衛生學の本を讀んで、體操しなければならぬ、良い空氣を吸はなければならぬとは知つてゐても、それを實行しない「少し散歩してはどうですか」と人から注意されても、それを「はい」と云つて實行しないから、氣がむしやくしゃして來るのである。「デニ

スをしませんか」と誘はれても「してもいいんですがね、下手だから見てゐます」と云ふ。筋肉運動の機会を持つてゐながら、運動をしないで、部屋に閉ぢ籠つては詰らない婦人雑誌に読み耽つて一日棒に振つてしまふ。

であるから私は、生理的方面の病人に接近すればする程、二人前の注意をして欲しい。看護婦は、彼女自身と、病人の健康と、二人分達者でなければならぬ。若し看護する人の身體が弱ければ、その人は四分の一の健康しか持つてゐないといはなければならぬ。

私は看護婦に、健康な身體を以て働いて貰ひたい爲に、次に少しばかりの注意を述べさせて貰はう。

・食物に注意せよ

粗食

と 榮養

先づ第一に、私は食物に就て述べたい。私からこんな事をいふと、それ位の事は解つてゐると云はれるかも知れないが、私は常識として知つて頂きたい。醫者や看護婦が、カロリーがどうの、ヴィターミンがどうしてといふことは讀んでも、實際、醫者が、カロリーを量つて藥を病人に與へてゐるであらうか。私は、神戸にさういつた病院をたつた一軒しか知らない榮養研究所の佐伯博士は、藥なしで、食物だけで病氣を治して居られる。

私は十四年八月神戸葺合新川の貧民窟に住んだが、貧民窟は非常に傳染病が多い。次から次と傳染病の絶間がない。或時などは、九軒位並んでチブス患者が出た。大正七年五月の如きは、一週間のうちに私の近所から七人の瘡癩患者を出したが、私の家だけは出なかつた。私はまた、九年間といふもの腸を一度も毀したことがなかつた。それといふのも、肉は一切食はないで、茶食主義で通した

からである。また私は貧民窟に居る間、食物は何でも、支那料理式に、——支那人は煮沸したものでないと思へない——よく煮た熱いものしか食べなかつた爲、みんなが傳染病に罹つても、私だけ罹らなかつたのである。その癖で私は、いまでも熱いものが好きである。衛生學を讀んでゐる看護婦でも腸を毀す者が多いがもう少し斯ういつた方面に注意して貰ひたいものである。

また美味しいものを澤山食べたからと云つて、身體によいのではない。卵を五十個食べ、或ひは、牛乳を一斗飲んだところで、決して役に立たない。身體に一番いゝのは、何んでもよく嚙んで、唾を混じて腸に入れることである。ケロツグ博士の書いた「粗食養生論」の中には、金が無ければ不味いものを食べてゐてもいゝ、不味いものを一遍に七十回嚙んで食べるといふことが書かれてあるが私はそれを實行した。派出先へ行つて御馳走が出ないとする、そんな時ぶつぶつ云は

ないで、その不味いものを食べる時、粗食修養論を思出してよく嚙んで食べて欲しい。また看護婦の給料は安いから、貧乏な中にも充分榮養がとれるやうにしなければならぬ。我々の一番安い榮養の原料は唾である。唾を用ひないなら、いくら肉を食べても、美味しいものを食べても役に立たない。私のやうに貧民窟に十四年八ヶ月住むことが出来たのも、生ものを食べなかつたのと、焼味噌でも、うまいと思つて食べてゐたからである。兎に角、腸を大事にすることである。腸が丈夫であれば、肺病に罹つても大丈夫である。私は醫者とは違ふ。然し、今日まで多くの病人と接して来た關係で、病人の事に就ての常識位大抵知つてゐると思つてゐる。それで私はまづ、運動を怠らないこと、腸を丈夫にすることを、みんなにお勧めしたのである。寝冷したり、サイダーを飲み過ぎたり、氷水を飲んだりすると、きつと後で腸を毀すに決つてゐる。

私は統計を信するものであるが、最近十五年間の天候の統計を見ると、神戸では八月十五日にはきつと雨が降つてゐる。斯ういつた統計に注意して、看護婦が看護先へ行く時でも、町別で大抵死亡率がきまつてゐるから、例へば大阪なら、一年千人に就き、二・三の死亡があり、神戸の新川當りなら千人に五十一人の死亡があるといふことを略々考へて派出に行く必要がある。私の家の近所へ来る人は、此處は百人の中五人位は駄目なのだといふことを頭に置いて、來なければならぬ。それは統計上さうなつてゐるのであるから、もう少し斯ういつた常識を發達させて、注意したいものである。

震災當時、私は濟生會の看護婦を五十人預つた。その時でも貧民窟にはトラホームが多いから、よく手を消毒して注意して下さいと云つたのに、五十人が五十人ともみなトラホームに傳染してしまつた。それは何故かと云ふに、一々手を洗

ふのを面倒臭がつたからである。これは傳染病患者に接近する時によく注意しなければならぬ。手を洗つたり、脱衣したり、消毒したりするのは面倒臭いが面倒だからと云つて、注意しなければ必ず傳染する。

睡眠を充分とれ

もう一つ私が、生理的條件として、お勧めしたいのは、睡眠である。睡ることが少なければ腸チブスなどはきつと染る。だから我々の一番怖れるのは睡眠の不足である。重病患者に付添ふ場合など二晩も睡らないでゐることは必ず悪い。三晩目にもなつたら必ず充分に睡眠をとらなければならぬ。睡眠が不足すれば疲勞する。疲勞の激しい者ほどチブスのやうな病氣は染り易い。だからさういつた重病患者に付添つた場合、睡むたい時に

分以上
の
仕事

は、「済みませんがやすんで来ますから代つて下さい」と云つて頼んで差支ないのである。傳染してもかまはないといへば、それつきりであるが、病人を看護する時には、二倍の健康を持たなければならぬことを覚えてゐてもらひたい。分以上の仕事させられる時には断らなければならぬ。分以上の仕事無理にしても、それは犠牲ではない。人間の身體がさう出来てゐる。攝氏四十二度に體温が上つたら死ぬといふ限度がある。分以上の仕事をする場合、三日間も睡眠をとらないといふやうな場合には、断然、断つたらいい。決して引受けてしてはならぬ。

物理學的 技術への 熟練

科學的であれ

看護する者の上に斯ういつた危険性が加はつてゐる爲に、私は運

動に就き、食事に就き、睡眠につき話して来たが、次に私は薬に就て、ちよつと述べたい。私の意見では、看護婦自身は出来るだけ薬を用はないやうにしたらいいと思ふ。人間の身體の力そのものを活用するやうに、或ひは物理化學的方法を用ひるやうにしたいものである。薬のみで病氣が治るなら、看護婦の必要はない。看護婦が必要なのは、醫者で出来ない仕事をやる爲である。繃帯をとるか、湿布をとるか、温度を調節するとか、電氣療法をするとか、或ひは氷嚢を取變るとか云つたことは、一々醫者がしてゐる譯ではない。醫者は一日一回、而も一分やそこいらの時間で、患者を診察するだけである。後の廿三時間と五十九分までは看護婦が責任を持つ部分である。この廿三時間と五十九分の間に、物理化學的方法を充分しなければ看護婦の任務を果たしてゐるとは云へない。肋膜の治療は濕布療法にきまつてゐる。此の頃雷氣療法が非常に進んで来たやうだが、それと

ても割合に利用されてゐないのである。そういつた事は看護婦が注意して、醫者の氣付かない點をどしどしやつて行きたいものである。

病人は始終寝てゐるものであるから、丈夫な時には、枕など有つても無くてもいゝやうな人でも、枕の具合が氣になつてみたり、身體の位置を氣にするものであるから、看護婦は、さう云つた些細なことに、充分科學的であつて欲しい。

私は病氣といふ病氣には殆ど経験がある、——トラホーム、中耳炎、蓄膿症、齒、心臟病、肋膜炎、肺病、腎臓病、痔瘻、何でもやつた。兩手も折られてゐる——さう云つた自分の経験から、病人に付添ふ看護婦を崇拜するのであるが、薬を用はないで、例へば、どういふ風に枕を置いて、身體を樂にさしてあげようと云つたことに、もう少し注意を拂つて欲しい。日本には之等の科學的の技術は非常に少い。殆ど無いと云つて差支ない。病人は頭の部分がちよつと下つてゐても、苦

しくて寝られないのである。それは健康な者には判らない。水を飲みたいといふやうな場合の爲には、水の飲ませ方を工夫しなくてはならない。それも平常から、自分達が水を飲む時、どういふ風にしたら飲みよいかを経験する必要がある。或ひは水の作用を研究しておく。リウマチや尿毒症の如きは平常から水を飲んで居れば罹らない。

斯ういつた事など考へて、看護婦は醫者の手の廻らないやうな處を、外部的力量によつて、どふいふ風に、病氣を良くすることが出来るかを、研究する必要がある。それが看護婦の修養である。民間療法などに就ては、普段からよく本を讀んで工夫するのもよい。按摩が欲しいやうな時には按摩も出来るし、或ひは死が近づいて来て、醫者の診断を信じないやうな時に、その病人に對して權利を持つのは看護婦である。であるから、看護婦が、親切であつたら、病人は看護婦の云ふ

通りになるものである。そんな時に、確信を持つて、「斯うしたら治ります」と云つてあげる位に、看護婦はしつかりしてゐたいものである。薬以外の力を利用して治す方法も看護婦は知つてゐなければならぬ。その人の體質によつて、種々な物理化學的な方法がある。マツサージ、カイロプラクチック、血行療法などがあるが、看護婦は、それらに對し、普段から深い注意を拂つて、修養を積んでおかなければならない。

心理的疲勞の防衛

剛健なる精神

第二に、心理的疲勞に對する防衛である。どうしたら疲勞をしないか？ 運動をし、食事の注意をし、睡眠を充分とり、腸が調つて、物理化學的な自然な變化に對し知識が出來れば、疲勞を感じないで、善

い働を續けて行くことが出来る。然し生理的に強い人でも、心理的に弱い人がある。死んだ人の顔を見るとぐんにやりしてしまふ人があるが、看護する人には特別な氣丈夫な人が要る。

札幌醫科大學の死體室の番には一人づつ交代に宿直するさうであるが一人づつ死體の並んでゐる所を一晚中番をするのは大抵ではない。生きた人の番は、誰にでも出来るが、死人を番するといふには、どうしても宗教的になつて、剛健なる精神を持たなければ出來ないことである。

熟練

慌てない修養

心理的に疲勞を感じないやうにするには、まづ第一に熟練することである。明治四十三年に、私は死體を十四片付けた。また四十四年に

は十九處分した。一番最初世話したのは、四ヶ月位の赤ん坊であつたが、それでも死んでゐると思ふと、恐くて厭でたまらなかつた。堅い灰色の死體をアルコールで拭いて、それを棺に納め、火葬場へ持つて行つて焼くのであるが餘り氣持のいゝものではない。それが、十も十一も取扱つて、死體を片付けるのに馴れて來ると、もう熟練してくる。そして、靈魂のあるものとして取扱ふことが出来るやうになる。死に出會しても、それを機械視せず、靈魂のあるものとして取扱へるやうになる。斯ういつたやうに、死の恐怖を感じなくなるといふのは、一つの熟練である。

病人が苦痛を訴へる時など、看護する者に熟練が積んでゐないと、氣がそわそわして、何も手につかずに疲れてしまふ。病人がお願ひします、といふ時、自分一體どうしたらいいのか判らないから少しも落着けない。これも熟練である。

どんな時にも慌てないやうに修養することである。

瞑想の工夫

心の落着

熟練し、場所を多く踏み、科學的理解を持つと共に、醫學や衛生學の本に書いてない心理的疲勞に對する防衛をしなければならぬ。いづもしつかりした氣持で居れるやうに注意したい。それに一番、必要ことは、氣を散らさないことである。私は病人を看護してゐるのだ、といふことをはつきり自覺して、注意力を集中して、氣を落着けなければならぬ。それは普段から、瞑想の工夫を覺えてゐることである。病人の方でも瞑想の工夫の出来る人は、注射する時など、ねむるやうな氣持で居られる。

病人が寝てゐる時でも、何もする事がなくても、靜かに緊張して居られるのは

瞑想の工夫——静座をする工夫を知つてゐるからである。この心理的落着を知つて居らなければ、病人に對する看護は充分ではない。瞑想の工夫とは、どんな時にも慌てないで、氣を落着ける工夫である、慌てゝしまつて、譯の判らないことをしてみたり、檢温器を逆倒に入れるやうなことはないとしても、随分慌てる人があるが、そんな人は何もする事がない時に、瞑想の修養をすればよい。私などはよく、ぼんやりしてゐるやうな時に瞑想をしては、名刺の裏にいろ／＼な問題を考へて書付けてゐる。練習が積むと愉快なものである。いつでも緊張してゐて疲れない。むしろやすする時ほど、氣の疲れる時はない。派出先が氣に入らなくて、「こんな所は仕方がない。歸つてしまはうか、厭な病人だが、もう少ししてやらうか」と、落着けないで、いらいらする時にも、靜かに祈れるやうになりたいものである。——神様、この病人はどうも厭なんですが、私の氣を落着けて、

もつと親切にお世話するやうにならせて下さい——と祈れる位の修養が欲しい。

斷 定 的 に

病人は赤ん坊である

病人が入院して來た時、病狀に對する第一の瞬間に於る心得が大切である。看護婦は、それによく注意して、親切にしてあげないと、病人は安心出来ない。そして意地悪になる。看護婦は看護婦で、ちよつと用事があるから歸つて來ますと云ひたくなる。だから看護婦は、病人を診察する前に、自分を診察する必要がある。自分は病人が意地悪をしても、それに勝つ力を持つてゐるかどうか。病人は、九分九厘まで精神的に變である。病人といふものは初めに、脂肪が無くなり、筋肉が無くなつて、精神が變になるので、瘦せてゐる病人は、殆ど神經的に變だと思へば間違がない。であるから、一私は精神

病人を世話してゐるのだ」と、思つて看護すれば、その變な精神病人に打ち勝てるのである。自分がしつかりして居れば、斷定的行動がとれるのが、斷定的行動がとれないやうでは、人を世話する権利がない。病人は赤ん坊である。排泄物の世話まで人に厄介をかける赤ん坊である。だから、何事につけても、餘りくどく云はないで斷定的にはつきり云へるやうに、詰り、責任を感じて云へるやうにしなければならぬ。

使命を感ぜよ

キリス の業 者をする

そこで、落着いて、勇氣を以て、疲勞を感じないやうに、病人に勝つ修養をしなければならぬ。あの看護婦は、間に合はないとか、落着かないといふことをよく聞かされるが、それといふのも、生理學許

り讀んでゐるからである。病人が考へる先に先に手を廻して、水を飲みたいやうだつたら、先に水を用意して來てあげ、手拭が入用の時には、病人がいふ前に取つてあげるやうに、また花位、いつも氣を利かして挿してあげる。單に生理的ばかりでなしに、心理的に病人を救済するといふのでなければならぬ。それには、いつも嬉しい氣持を以て病人に接し、その氣持を病人に與へる。嬉しい氣持を與へるのが、病人に一番よい。看護する人が悲しい氣持で居る時には、病人も悲しい。この嬉しい氣持を常に持つには、第一に健康でなければならず、もう一つは、自分の内に宗教を握ることである。自分が安心して看護婦は、自分の使命である。と自覺することである。「いゝえ、私は使命なんか考へてゐません、私は金儲けの爲です」と云つて、何時間働いたから幾らになる、と云つたやうな考へで、病人を看護してはならない。これは私の戦争だ、野戦に出てゐるのだと思つて、看

非子姉

聖母の御心 尼未村のたふし

護婦の使命を發見することが大切である。イエスの十字架を思ひ、これは神の命
令だ。キリストの業をするのだといふ氣持であれば、いつも愉快で、にこにこし
て居られる。使命を感じてゐるからである。

私の身内に御大師さんを信じてゐる、全身不隨の病人が居る。三年間その病
人に付添つてゐる人はキリスト信者であるが、病人は、自分に附いてゐる看護婦
がキリスト教信者であることを知らないものである。病人がどんな我儘を云つても
その看護婦は怒らないで、辛抱して、親切に世話してゐる。私はその人を尊敬し
てゐる。その人には充分看護婦としての修養が積めてゐるからである。自分の精
神の持ち方一つでどうにでもなる。神の使命を感じて、キリストが天から降つて
人の爲に犠牲になられたと同じ様に、私はキリストの生れ變りだと思つて、病人
の爲に盡してあげたい。そんな事は話らないと思へば話らない。早く結婚したい

と云へばそれきりである。然し、病人は誰かゞ世話をしなければならぬのだか
ら、ひとつ私が引受けて、世話をしよう、と云つてこそ、そこに、ナイチンゲー
ルや、エヂス・カベル女史の精神がある。(カベル女史に就ては、拙者「看護婦崇拜

論」参照)

責 任

母の
つもり

第三に大切な事は責任である。前に述べたやうに、病人は赤ん坊で
あるから母のつもりで世話をしなくてはならぬものを、苛めてみたり
すると、病人はますます曲つてしまふ。病人は前にも述べたやうに、

精神が變であるから、言葉遣ひ一つで、氣にしたりしなかつたりするのである。
或看護婦が猫を捕へて殺した話を病人にしたところが、病人は、看護婦が私を苦

しめたと云つたといふ事實があるが、これは心理的不注意から起つたことであるから、責任を持つて、病人の氣持をよく考へることが大切である。(拙著「病人慰安法」参照)

もう一つは同情であり、職業的態度を採らず、他人行儀を考へないことである。また、病人が泣けば、自分も泣くやうではいけない。氣丈夫に心を持つて、寧ろ、病人が泣いたら、手拭を出して涙を拭いてあげるといふ位でなければならぬ。

道徳的危険

宗教意識をもて

最後に私は性的失敗に就てちよつと述べたい。之は宗教の問題である。若き異性を看護する時、宗教意識を持つてしなければ、性的失敗

に陥つて、一生詰らない生活を送るやうになる。私は、看護婦生活を送るものがこの點によく注意してもらひたいと思ふ。イギリスの看護婦はこの點で實に偉いと私は思ふ。ナイチンゲールにしても、カベル女史にしても、イギリスの女性の間には健康を重んじ、心理的注意を怠らず、道徳的理想がある爲に、イギリスの女性は世界に於て最も立派な看護婦であることを證明してゐる。イギリスの婦人は身長六尺もあるやうな體格を持つてゐる。男一人抱える位何でもない。近頃の日本の婦人も健康であるが、健康な人が甲斐甲斐しく看護してゐると愉快である。健康な人でないと病人は心配する。神経質な人に看護されると、病人も神経質になる。

日本の女性には偉いところがある。勝氣であるといふこと、辛抱強いといふこと、世話女房式であるといふことである。その代り、神経病みで、こせこせして

ある所もある。

キリスト精神

看護婦の生活

キリスト精神でやつて居れば、道徳的失敗に陥るやうな時でも充分勝てる。患者と戀愛關係が起つたとする。看護婦は女だから、さういつの間違がよくある。然し、同情と戀愛とは別である。この場合患者は、同情を間違へてとつてはならない。看護する者も、同情と戀愛を一緒に考へてはならない、もしさういつた關係にあるとするなら、病人が病室を出てから後それが成立するかどうかを考へなければならぬ。病室を出て、日光に曝してみても、猶、尊敬し合つて、神聖な人格的結合が可能であればいいが、病室だけののであれば、その人の生活は零である。

であるから患者によく注意して、キリスト精神を基礎にし、——これは戀愛ではない。——自分は同情し、奉仕し、キリストの愛を以て愛し、犠牲になつて歩んでゐるのだといふことをはつきり知らせて、看護婦生活の尊嚴、十字架生活の尊嚴、赤十字生活の尊嚴を知らせなくてはならない。私は、キリストの精神を持ち、弱者貧民の爲に、金錢に換へられない親切と、愛と奉仕と犠牲的精神を持つ看護婦を崇拜する。また、さういつた自分を忘れた看護婦が澤山出ることを望んでゐる。

善人になる工夫

不
少
女
一
萬
餘
少
年
良

我等はどんなことがあつても、またどんな時でも善人になる修養を怠つてはならない。

今年の春、大阪府警察部の發表した處によると、中等程度の學生の間に、大阪市だけでも五千五百人の不良少年少女があると報告せられてゐた。恐らく東京市に於ても、それにも劣らない不良少年少女があることであらう。この比例で行くと、全國を通じて萬を以て數へる不良少年少女があることになる。明治卅三年頃には、全國の殺人犯は僅か五百をこそこであつたものが、今日は二千人を越ゆる數を示してゐる。一年を通じて、警察犯處罰令により罰せられるものは、全國で八十萬を突破してゐる。斯うした傾向を我々は何と見るであらうか。

性格

決定

善人になる工夫を考へることも、これを思ふと、全く野暮な話でもあるまい。今日まで私が不良少年を扱つて來た経験によると、不良少年少女や犯罪者の多くは、たゞ境遇が悪いばかりではない。人間的に非常な缺點を持つてゐるものが多い。勿論これらの人間的素質に同情すべき點が

大いにある。まづ生理的にいへば、彼等の多くは栄養不良であつて發育が非常に悪い。殊に貧民窟で育つた子供などは、睡眠不足のうちに成長してきてゐる。その睡眠不足がやがて、彼等を不良に導く原因ともなつてゐる。その他遺傳梅毒や遺傳的アルコール中毒、遺傳性の低能兒の間に、不良少年また不良青年の多いことは、見逃すことの出来ない大きな事實である。統計上のことはあまり細かいから、一々私はそれを述べない。即ち心理的に云つても、彼等はまことに同情すべき人間的惡質を遺傳してゐるのである。

然し、これらの遺傳的決定は、人間社會に於て、避くべからざる決定であらうか。そこに私が、社會に向つて反省を促したい點がある。これらの性格の決定は、さげえられないものでなく、我等が禁酒、放蕩をつゝし、配偶者を選ぶ場合に、よく注意すれば、二代三代の後は悲惨な犯罪者を無くすることが出来るのであ

る。それを情慾の導く儘に、飲酒淫蕩に身を持ち崩すものが多い結果、彼等一代はそれでよからうが、孫曾孫の時代になつて、恐ろしい結果が報わてくるのである、つゝしむべきは我儘な淫蕩氣分である。

良心と魂の彫刻

然し、生理的、心理的素質の外に、道德的訓練に就ても考へねばならぬ。今日ある一派の唯物論者は、あまりに境遇といふことに重きを置く結果、人間の自由意志といふものゝ存在を、全く否定する如き態度に出る人がある。これは大きな誤だと考へねばならぬ。私は境遇の感化力の非常に大きなことを否定するのではない。實際、暗示といふものは大きなものである人が瞑目して、一直線を白紙の上にひかうと思つてゐても、傍から『右に曲れ』『左に曲れ』と暗示をかけると、その暗示にかゝらないと思つてゐる者が、かゝらないと思つてゐる瞬間に手が鈍れて、右に曲り、左に曲り、くねくねした

屈線を白紙の上に描きつけるものである。この實驗は屢々心理学の教室で實驗せられるが、社會に於てもこれが繰返される。友人の感化や環境の感化によつて、悪に染まなれと思つてゐる人間が、悪事を働く例も澤山ある。活動寫眞を見た爲に強盗を働いたとか、探偵小説を讀んだ爲に人を殺したとかいふ話は、毎日のやうに新聞に出てゐる。それであるから、我々は善き友人に交り、よき讀物を選び、時にキリストの傳記とか、または孔子の傳記とか、釋迦の傳記とか、聖人君子のした仕事をいつも讀んで、大いに自己の心理的境遇を掃き潔める必要がある。

然し、境遇ばかりで、決して善人にはなれない。本人が努力しない處に、性格の完成はあり得ない。良心といふものは、見えざる處に刻む一種の彫刻品である。動機と理想は永遠に匿れてゐる。その見えざる兩端を繋ぐ手段だけが、人目に着く。そこで見えざる部分まで力を入れなければ、決して完全な人間は出来ない。

この見えざる動機と理想は、見えざる永遠より永遠につながつてゐる宗教的意識を基礎にしなければ、決して完成さるべきものではない。詰り、見えざる動機の中に神と對座し、見えざる理想に神と會ふ準備をしなければ、魂の彫刻は全く困難なことである。自分一人で決めた道徳が、貪慾な經濟組織を作つたり、墮落した政治を出現させるのである。キリストのやうに隠れたる動機にまで神を意識し見えざる理想にまで神の絶対の愛を基準とする者には、二點を繋ぐ一直線のやうに、永久の安定があり、勝利がある。我々もさうした道を歩きたいものである。

附 録

仕事を愉快にする工夫

同じ仕事をするのでも、いやいやするのと、愉快にするのでは非常な相違である。私共は誰だつて、好きこのんで労働をしてゐる人はないであらう。然し兎に角、かうやつて毎日仕事をしてゐる身としては、同じするのなら愉快にやりたいものである。その方がまたお互の幸福である。

生理的工夫

無理
を
するな

先づ、愉快に仕事をするには、あまり無理にいやなことをしないことである。わかりきつたことであるが、月給が僅かばかり多いからと

云つては、つい無理なことをするのであるが、これはあまりしない方がよい。病氣の場合でもあまり無理してはならない。そして不節制なことをするのを慎まねばならない。呉の海軍工廠では、休の二日続いた翌日は、能率が逆も悪い。二日飲むので、能率が非常に下つてしまふ。即ち酒の爲に、ついつい指をちよんざられたり、失敗をして、自分も會社も兩方とも取返しつかぬ損をする。だから休息日にはつとめて飲まずに、元氣にすごす工夫をしないと愉快に仕事をつづけることは出来ぬ。放蕩でもさうで、放蕩すると、身體がだるくて仕事がいやになる。徴兵された青年が、百人ゐると、そのうち二人は梅毒であるそうだが、これに罹ると、もの憂くて仕方がない。さつぱり愉快でない。仕事をしてもちよつともはかどらぬ。

よく 眠れ

もう一つはよく眠ることである。よく眠つた翌日は、逆も愉快に仕事が出来る。けれども睡らぬとぼんやりして、仕事がいやになる。夜働くことを厭がる人が、勝負事やカルタをやり出すと徹夜する。だから朝が来てもぼんやりして、仕事が手につかず愉快にやれない。で、もし他人の爲、國のため勞働するといふやうな健氣な精神をもつて、自分の好きなことも慎んでゆく位の覺悟がなければならぬ。

心理的工夫

注意 力の リズム

その次に、肉體と違つてもう一つ考ふべきことは、心理作用の方面である。それは注意力に心向ける必要がある。注意力には一定のリズムがあるので、いつも同じ程度の注意力があるといふものではない。

い。注意力がつい衰へる時が決つてゐるのである。

で、工場であれば怪我の多いのは十一時から十二時迄、午後四時から夕方仕事
の終るすぐ前である。朝の初は注意するから怪我をしないが、晝の前と、仕事の
終頃になると、注意力が衰へるのでつい怪我をする。で、この時に注意をしない
と、人を困らせ、自分を傷け、會社にも損をさせることになつてしまふ。そして
特に氣をつけなければならぬのは、朝の初である。それはクレツペリンの法則と
云つて、仕事始めの五分間位は非常に危いのである。仕事を始めても、まだ心
中では友人のことや、家のことや、昨夜のことが氣にかゝるから、つい注意力が
集中出來ず、あやまちに陥る。で、この仕事はじめの五分間はよほど
緊張して、失敗しないやうにせねばならぬ。

熟練 の 法則

それから熟練の法則と云ふものがある。仕事といふものは初めから

よく出來るものではない。だんだん練習してゆかなければ充分に出來るものでは
ない。私ばかりでベルを組合せてみたが、簡單な七つから成るものを三分かゝつ
てやつてをいて、多少熟練した後、廿一からなる複雑なものをやると二分位で組
立てられた。が初めから二十一から成る方をやらうとすると、どうしても二十分
位はかゝる。即ち簡單なものを先にやつて、むづかしいものに向つる方が、却つ
て早く熟練するのである。初めからえらい仕事をしようとするとか却つてうまくい
かぬ。で、初めは易しいものをやつて、次にむづかしいことに取りかゝると、學
習の法則（熟練の法則）にかなつて、却つて進歩が早く愉快に出來るのである。
獨學で英語などを勉強する時にも初めから四年のものをやらずに、やさしい一年
か二年のものから始めるのがよい。

英國の人に比べて、日本の労働者の方が機械を使ふのが下手である。それは英

國の人は宗教的で、念には念をいれるからである。これは私が神戸でブラシ工場を經營して氣がついた。念を入れてやさしいものからやると、仕事は愉快にやれる。

親切 の 傳染

次に大切なのは、親切なことである。日本の産業は、どうも不親切である爲に行詰つてしまふ。うるし塗なども米國に盛に輸出されてゐたに拘らず、最近ばつたりとその輸出が止まつてしまつたのは、静岡の職人が二十度塗る所を、すぼらして十度しか塗らなかつたからである。現今では、産業はなかなかむづかしくなつて來てゐるから、うつかり出來る時ではない。英國に於て、三百五十萬人の大ストライキをしたに拘らず、遂に失敗してしまつたのは、事實不景氣であるためであつた。で、今年の春の大會では、この不景氣の時に無理をしてストライキをやらぬやうにと決議した。日本でも同じことであ

つて、少し位氣に入らぬ事はあつても、無理な勞働運動をやめねばならぬ。のみならず、仕事をする者が、親切によいものを拵へてやらねば、外國の販路がますますなくなつて、勞働者みづからも困らなければならぬ。で、日給の問題を離れて、國家の産業經營から親切にしなければいけない。同じ場所に居るもの同志が互に心よく愉快に仕事をしたものだ。山室軍平氏がよく話される面白い話がある。一人のしかめつ面の郵便局の局員の不親切な態度に不快を抱いた人が、その友人を不愉快にし、友人の不快がまたその妻に移り、妻の怒が女中に傳染し、女中がそれを受けついで、井戸の釣瓶をがたびしやしたといふことである。

不親切は速く早く傳染するものである。がその反對にまたこゝした顔は次から次へ傳染してゆく。一人の伍長がこゝしてゐると、その部下はうれしくて、日給が少くても愉快だといふことになる。また一人の看護婦が愉快にしてゐ

ると病人は勿論、家中全體が明るい氣持になるものである。仕事が面白くなり、能率があがり、製作品までほゝゑんでゐる。親切がはいつて來ると仕事は愉快になる。

信仰生活の方へ

けれど人生はいつも春ではない。子供も死に、つらい事が起つてくる。思はぬ災害が起らぬとも限らない。また貧乏で困り續ける時もある。人に悪口を云はれる時もある。が、そんな時も悲觀してはならない。悲觀してしまつて、厭な顔をして沈みこんではならない。どうしてかゝる時に悲觀せず居られるであらうか。此事について宗教が必要である。

私は少年時代は淋しかつた。が、宗教によつて、うれしい生活に入つた。信仰が出来てから、どんな時にもよるこんで、うれしい生活を續けてきた。私はどんな時でも、神様の愛を信じてうれしい氣持で進んできた。また私は今日まで労働

運動もやり、農民運動をもやつて見、無産政黨もつくつて見たが、どうもみなばらばらであつて、皆えらくなりたがつて喧嘩してゐる。分裂に分裂を續けてゐる彼等には親切がない。そこにはどうしても、天を相手として國家の苦痛を背負ふて立つた西郷南洲の意氣が欲しい。彼が明治維新の偉業をこの信念のうちに完成したやうに、昭和維新のために、信念を抱き、天地の神を信じ、人が見てゐなくとも、見てゐても、全力を盡して使命のためにつくす偉大な多くの人物が起らなければ駄目である。それは、人が困つて居れば、その苦難を背負つて立ち上つたキリストのやうな、元氣がなければ出來るものではない。

昭和三年十二月二十日印刷
昭和三年十二月二十五日發行
昭和十二年二月二十五日再版發行

【定價一部金拾錢】

複製
東京市世田谷區上北澤町二丁目六番地
著作兼 賀川 豊彦
發行者 東京市京橋區湊町三丁目二番地

不許
印刷者 木 藤 秀 雄
東京市京橋區湊町三丁目二番地
印刷所 三 豊 社

發行所
東京市世田谷區 雲の柱社
上北澤町二ノ六〇三
電話松澤二一八七番
振替東京七二七五四番

毎月一回

主筆・賀川豊彦

雲の柱

一日發行

愛土・愛隣・愛神の 世界精神を呼吸せよ

「宗教を生活する現代の偉人」ニアメリカ人が絶讃する賀川先川の愛の運動の全貌は毎號の本誌に展開さる！

每號
主文論—舊新約聖書講義—時事評論—農村問題—
勞働問題—協同組合運動—海外消息—科學界消息
容内—宗教文藝—個人的宗教經驗—その他滿載

- ◆定價一部金貳拾錢。
- ◆書店に無き時は直接本社へ御注文下さい。
- ◆見本進呈—本社へ申越次第舊號をお送り致します。

東京市世田谷區上北澤町二丁目六〇三番地

發行所

雲の柱社

電話松澤二一八七番
振替東京七二七五四番